「都南の字ひ合い」	「都南小字校のきまり」	」を翻続的に指導し、E
コオーディネーション	ルルーニングを任用し	て休り向上を図る

大項目	目標	度関係者評価の結果の概要と改善策 取組内容	取組指標	取組評価	日標に対する成本相	標	成果 評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	人数	学校関係者記入欄 コメント
プラ		外国語教育指導員を効果的に活用し、外 国の方々とのコミュニケーション能力の育	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。	4	学び合いアンケートで 「タブレットを使っての 学習は楽しい」と回答し	4:					
ン 1		成等を図っている。	2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	7	学習は楽しい」と回答した児童が80%以上				Α	4	
	コミュニケー	論理的、科学的な思考力の育成を目指し、 「おおたのものづくり」を生かした体験活動	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。	2	march 1 m	0		・英語の講師やALTを効果的に活用 し、英語に親しめる環境を作ることが			
未来	ション能力、情報活用能	や理数授業等を実施する。	2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活		学び合いアンケートで 「タブレットを使っての 学習は楽しい」と回答し	3:		できた。 ・校内研究と関連させながら、道徳科 や日常生活の中で、人権について話			・国際化に向けて外国語教育に力を入れることはたい
社会	力、ともに生きる力等、こ	学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、I	4: 改画教室を使用する主に規数員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。	4	た児童が70%以上			し合ったことで、人権を尊重する意識 には伸びが感じられる。	В	3	んよい。 ・全校朝会の週1回の実施を継続してほしい。校長の話 を聞くだけでなく、隣人の顔を知っておくことは災害時に
を 成創	れからの社	CT機器を活用した授業を実施する。	2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。				4	・体育の授業では積極的に活動する ことができているが、休み時間や放 課後の時間の運動習慣ができていな			おいても役に立つ。 ・タブレットのみに偏ることなく、互いに意見を伝え合う。 習で、会話する力が付いていると思う。文字や文章を自
造的	会の変化にしなやかに対	他者の人権を尊重する人権教育の推進を 目指し、人権教育資料等を活用した授業を	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。	3	学び合いアンケートで 「タブレットを使っての 学習は楽しい」と回答し	2:		い。学級遊びの時間を設定するなど して、体力をつける場面を増やしてい く。			分の手で書いて文章力を付ける学習も併せて継続して  いってほしい。
に生	応する子ども の力と自信を	実施する。	2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。		た児童が60%以上			・論理的、科学的な思考力の育成を 意識しながら授業を展開することに 課題が見られた。児童に説明させた	С	0	<ul><li>・新しい学びに子どもたちがワクワクしている様子が見いる。</li><li>・登下校の荷物がより少なくなるように工夫してほしい。</li></ul>
きる	身に付けま す。	体カテストの結果を踏まえ体カ向上全体 計画を作成し、計画に基づいた体育指導や 「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動		3	学び合いアンケートで	1:		り、互いの考えを交流する場面を増 やし、説得力のある意見が話せる力 を伸ばしていく。			-
子		を実践する。	1:60%未満であった。 4:全教員が行った。		学び合いアンケートで 「タブレットを使っての 学習は楽しい」と回答し た児童が60%未満			Ellino Co (			
供の	1	新しい生活様式における対話を教育活動 に取り入れ、コミュニケーション能力を高め る工夫する。	3:90%以上が回答した。 2:80%以上が回答した。	4					D	0	
育		学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一	1:80%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。		学び合いアンケートで 4: 「学校での勉強や生活	4:					
	,	人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	2:60%以上で行った。	2	に一生懸命取り組んで いる」と回答した児童 が80%以上 学び合いアンケートで 「学校での勉強や生活 に一生懸命取り組んで			Α	5		
プ		算数・数学到達度をステップ学習チェック	1:60%未満であった。       4:学期に2~3回知らせた。       3:学期毎に知らせた。			3:		・学習カルテを一人一人が作成し、各			<ul><li>・習熟度別少人数での学習指導は子どもたちにとって集中して学習ができる望ましい学習方法である。</li></ul>
ラン	児童・生徒一	シートで児童・生徒、保護者に知らせる。	2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2			教科の定着度に関して、課題意識を もたせることができた。面談をする時間を設定するのは厳しいので、カル	В	2	・子どもが登校する楽しみは、学習や友達の交流など多 岐に渡るが、やはり学習ができることだと思う。理解に 間のかかる子どもを置き去りにしていくことがないように	
2	人ひとりの学 ぶ意欲を高	学習補助員等による算数・数学・英語の補	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。	4	いる」と回答した児童 が70%以上		4	テを参考にしながら日々の授業での 個への対応を行っていく。 ・土曜補習や放課後補習を行い、自			お願いしたい。 ・学習カルテによって子どもたちは自分の苦手分野だけ
学力	め、確かな学 力を定着させ	習を実施する。	2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	Ċ	学び合いアンケートで 「学校での勉強や生活 に一生懸命取り組んで	2:	分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを理解させたりしている。 ・1学期に作成した授業改善プランを			でなく得意分野を意識してがんばれていると思う。先生 方や保護者も視覚的に認識でき、個別の対応が充実す スニレけよいことである	
の向	ます。	授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	4	いる」と回答した児童 が60%以上			教員間で共有し、児童の実態に合っ た授業を行っている。授業の工夫に ついて、異学年間でも情報交換する	С	0	<ul> <li>子どもたち一人一人に対応していただけるのはありがたい。</li> <li>・タブレットを活用して日ごろから家庭でも子どもたちの</li> </ul>
上	-		2:60%以上が回告した。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。	1	学び合いアンケートで 「学校での勉強や生活	1:		ことに努めている。			・ダンレットを活用して日ころから家庭でも子ともだらの 学習上記について前向きな話ができるとよい。
		学習指導要領に基づいたよく分かる授業に なるよう教材研究を重ね、児童が学習意欲 を高めるよう工夫した授業を行う。	3:90%以上が回答した。 2:80%以上が回答した。	4	に一生懸命取り組んで いる」と回答した児童 が60%未満				D	0	
		小中一貫による教育の視点に立った生活	1:80%未満であった。 4:全教員が行った。		学び合いアンケートに おいて、「自分にはよい	4:					
		が中一員による教育の税点に立った主活 指導の充実により、社会のルールや学校 のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	4	おいて、「自分にはよい ところがあると思う」と 答えた児童が80%以				А	4	
	子ども一人ひ	道徳教育推進教師を講師とした研修や、	1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。		<u>.</u>						
プラ	とりの正義感	国、都及び区の資料を活用した授業等を行 う等道徳指導充実のための取組を行う。	2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	学び合いアンケートに おいて、「自分にはよい	3:		・「都南の学び合いアンケート」を年に 2回行い、児童の学習や生活の実態			
ン	や自己肯定感、自己有用	学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の 結果よりストレス症状のみられる児童・生	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	4	ところがあると思う」と 答えた児童が70%以 上			2回行い、児童の学習や生活の実態 について調査し、児童理解に努めて いる。アンケート結果を見ても、全体 的には自己肯定感が高い児童が多	в	3	・いじめ、不登校の問題に積極的取り組んでいってほし
3	感などを高めるとともに、	徒に対して組織的に対応する。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	7				いので、今後も関わり方や学習環 境、生活環境を工夫し、児童の心の 育成を図る。			・不登校に関して、地域の役員などと話し合って解決へ 向かえるとよい。
豊かか	自他の生命を尊重する心	学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめ の未然防止、早期発見等のための取組を	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	4	おいて、「自分にはよいところがあると思う」と	2:	4	<ul><li>・問題行動、不登校問題に関して、担任と管理職だけでなく、全職員が連</li></ul>			<ul><li>子どもの意識が遠慮がちなところがあるように感じる。 積極性を持たせるような教育をお願いしたい。</li><li>自己肯定感が高い子どもが多いのはたいへんすばらし</li></ul>
な心の	を育成するなど、未来への	実施する。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に		答えた児童が60%以 上			携して対応している。 ・道徳科について、児童が自己を見 つめることはできているが、家庭との	С	0	い。 ・自己肯定感と他社を認めた移設する心情は相関がある。
育	はなべみま 生徒に関するケース会議等を実施す。	問題行動・不登校問題等にかかわる児童・	対応した。  3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。	1 2 2	学び合いアンケートに 1: おいて、「自分にはよい ところがあると思う」と 答えた児童が60%未 満			連携については課題が見られる。 ワークシートを持ち帰らせ、家庭内で も話題にするなどして、家庭生活と関 連させていく。	D	0	と思う。丁寧にご指導いただきたい。
		生徒に関するケース会議等を実施する。	2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組			1:					
		「特別の教科 道徳」の指導において、家	線的な対応をしなかった。 4:全教員が行った。								
		庭と連携しながら自己を見つめる指導の工 夫をする。	3:90%以上が回答した。 2:80%以上が回答した。 1:80%未満であった。	3							
プ	スポーツに親しむ心の育成や、運動習齢	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を 通して、児童・生徒や保護者に対し、望まし	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。		学び合いアンケートに 4: おいて「朝食を食べて 登校している」と回答し						
ラン		通じて、児童・生徒や体展者に対し、重まし い生活習慣についての意識啓発を行う。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	た児童が80%以上			・「早寝・早起き・棚ごはん」月間を実施し、それ以外でも継続的に学級指	Α	6	
4		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	4	学び合いアンケートに おいて「朝食を食べて 登校している」と回答し た児童が70%以上	3:			В	1	・「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みはたいへんすばら しいので、継続していってほしい。
の体 増力	よる体力の 向上など、生	育」を推進する。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。		た児童が70%以上 学び合いアンケートに	2.	4	導を行うことで、朝食を食べることが 習慣化している。 ・短縄月間やマラソン月間を実施し、			・家庭でも朝食の大切を伝えている。学校でも実施していることで、確実な習慣になっていると思う。 生活のリズムがしっかりとできているのはよい。家庭の
	涯にわたって 健康増進を	体育的行事、部活動、休み時間など様々な 機会を通して運動習慣の確立を推進する。	3:80%以上の教員で行った。	4	おいて「朝食を食べて 登校している」と回答し た児童が60%以上	-	1	継続的な運動習慣づくりに取り組んでいる。 でいる。 ・健康のために、休み時間の外遊び について励行する。	С	0	協力があってのことである。  ・小学生のうちから自らの心身の健康について考える機
上と	図る意識の 向上をめざし		1:60%未満であった。 4:全教員で行った。		学び合いアンケートに	1:			$\vdash$		会は必要である。
健康	ます。	新しい生活様式の中での体力向上と健康 の増進を図る指導を工夫する。	3:90%以上が回答した。 2:80%以上が回答した。	4	おいて「朝食を食べて 登校している」と回答し た児童が60%未満				D	0	
プ		MANAGED ON ASSETT A TOMORES	1:80%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。		保護者アンケートにお いて「お子さんは友達						
ラン		授業公開日の授業評価を、その後の授業 改善に生かす。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	と仲良く遊んだり勉強 したりして、楽しく学校 生活を送っていると思				Α	4	
5	児童・生徒が	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、 主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。	,	う」との回答が80%以 保護者アンケートにお	3:		・毎回の授業公開後のアンケートを			
安全・   安全・   学校4	安全・安心に学校生活を	主任教諭が明旨・文接を行う校内研修寺を 実施しOJTを充実させる。	2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	いて「お子さんは友達 と仲良く遊んだり勉強 したりして、楽しく学校			全教員で共有し、授業改善の参考に している。 ・OJTを年6回行い、各教員の得意	В	3	・授業公開は学校の様子を知るたいへん貴重な機会な
力ある	送るために、教員の指導	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、 自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	4	生活を送っていると思う」との回答が70%以 保護者アンケートにお	2.	4	分野や興味のある分野の授業について共有し、授業理解や指導力の向上に努めた。			ので、これからも継続して実施していってほしい。 ・安全対策に気を配ることは子どもを守ることになる。 ・先生方の学びが児童の安心につながっている。
教	力向上と良 質な教育環	日外の反来収音にエがす。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:月1回以上行った。		いて「お子さんは友達 と仲良く遊んだり勉強	2:		・月に1度以上、特別支援委員会を実施し、校内の特別支援教育の体制を 充実させた。	С	0	・学校の枠を超えた先生方の相談体制の構築が必要であると感じる。
育環	境をつくりま す。	校内委員会等を確実に実施し、学校におけ る特別支援教育を推進する。		4	したりして、楽しく学校 生活を送っていると思 う」との回答が60%以			・研究授業以外の時間でも、互いの 授業を見合う時間を積極的に作り、 授業力の向上に努める。	Ĭ	٠	
境づく	. •	久 数昌 が白 こ 数 計 車 か またい 、 数 早 即 ー	1:実施しなかった。 4:授業改善に取り組み、全教員が実践した		保護者アンケートにお いて「お子さんは友達 と仲良く遊んだり勉強	1:		-			
ر د	各教 授業 より打	各教員が自ら教材研究を行い、教員間で 授業を公開したり、協議をしたりすることに より授業改善をする。	3:授業改善に取り組み、90%以上の教員が実践した。 2:授業改善に取り組み、80%以上の教員が実践した。	4	と仲良く遊んだり処強 したりして、楽しく学校 生活を送っていると思 う」との回答が60%未				D	0	
プ	教育目標 · 学校経営方針 ·	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本はおります。	1:授業改善に取り組み、80%未満の教員が実践した。 4:月1回以上更新した。	1	保護者アンケートで「学校 は、保護者会・学校だより。	4:					
ラン	学校・家庭・	本情報、児童・生徒の活動情報等をホーム ページ等で公開及び更新することにより、 積極的に情報を発信する。	3: 学期に2~3回更新した。 2: 学期1回以上更新した。 1: 更新しなかった。	4	学年だより・ホームページ等 をとおして学校生活や教育 内容について、分かりやすく 伝えていると思う」との回答				Α	6	
な6っ	地域が担う 役割などを明 確にし、地域	地域教育連絡協議会において、児童・生徒 の変容等の具体的な資料を作成して、評			伝えていると思う」との回答 が80%以上 保護者アンケートで「学校 は、保護者会・学校だより・	3:			H		・今やコロナ禍で大変な時代であるが、以前と同様に学校・家庭と地域が一体になって子どもたちを教育委していくことが大切である。
て学 と校		価に必要な学校の情報を適切に提供し、 適正な評価を受けるよう努める。	2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	学年だより・ホームページ等 をとおして学校生活や教育		・ホームページや学校だより、学年だより等で毎日の授業や学校行事での 児童の様子を保護者や地域に伝え	В	1	<ul><li>保護者と地域との顔合わせなどができる機会を作って ほしい。</li></ul>	
も・に家	教育の実現を目指しま	学校支援地域本部と連携するなどして、地 域力を生かした特色ある教育活動を実践	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った	位が	内容について、分かりやすく 伝えていると思う」との回答 が70%以上		4	た。 ・個人面談や保護者会、学校公開な ど、保護者と直に会う機会に児童の			<ul><li>保護者アンケートは自らを正当化する回答が多いと感じる。学校は適切な判断しながら対応をお願いしたい。</li><li>学校だよりがたいへん細かく出されていて、子どもの様</li></ul>
進庭	す。また、相互の連携を	攻力を生かしに何巴の句教 月	保護者アンケートで「学校 は、保護者会・学校だより・ 学年だより・ホームページ等 をとおして学校生活や教育	2:	•	様子について情報共有し、児童の豊かな育成のための連携をとった。 ・感染予防のため、保護者や地域と		_	子が分かり、安心感がある。先生方の過度な負担になる ない程度でよいので、今後も継続していってほしい。		
る地域をおった	深め、子ども	学校における感染症予防のための最新の 情報を得なから、家庭・地域とともに連携し	4:全教員が積極的に行った。 3:90%以上の教員が積極的に行った。 2:80%以上の教員が積極的に行った	4	をとおして学校生活や教育 内容について、分かりやすく 伝えていると思う」との回答 が60%以上			*飲業で助のため、体験者で応感さ の関わりの機会が譲ってきているか らこそ、新しい連携の仕方についても 考えていく。	С	0	・学校の様子が分かる方法は数多くあると保護者も安心できる。 ・ICT化が進む中で、家庭間の相互のつながりや顔が見
		感染症予防対策を行う。	2:80%以上の教員が積極的に行った 1:積極的に行った教員は80%未満であった。	1	保護者アンケートで「学校 は、保護者会・学校だより・ 学年だより・ホームページ等	1:					える関係性が築きづらくなっており、アナログ的な関係で くりも大切にしていただきたい。
					学年だより・ホームページ等をとおして学校生活や教育 内容について、分かりやすく 伝えていると思う」との回答				D	0	
٤					が60%未満						
				1							
ш	○「成里証価」	よ、各校が4段階で定めた成果指	- 専によって行う	1					ш		1